

2013年度 第2回「現場体験・情報共有の場づくり」実施報告 エコリレージャパン活動推進者研修会へ参加

実施日：2013年11月1日～2日
場所：兵庫県篠山市 ユニトピアささやま
協力先：エコリレージャパン、三重支部
参加者：松愛会、松寿会、現役(会社、組合) 計45名
概要 第一日：参加動機確認、講義(課題提起、現状報告)、グループワーク
記念講演
第二日：講義(里山再生)、現場体験、研修まとめ

－ 記 －

現役との情報共有を目的として、エコリレージャパン活動推進者研修会へ参加しました。

1. 第一日目

労働組合、会社代表ご挨拶の後、社会貢献委員会の野崎委員長より、現役の方と交流することにより、社会貢献活動の進め方に関しヒントを得ながら、今後に活かしたいとご挨拶いただきました。

開始に当たり、参加者同士で参加動機を確認した後、「今、求められる環境活動とは」のテーマで松吉講師より講義をいただき、具体事例を交え、なぜ現在環境が激変しているかについて学びました。

引き続き、山口事務局長より、エコリレージャパンの活動について報告があり、今後「生物多様性保全活動」へシフトするとの方向が示されました。

講義後、グループワーク(討議)を行い、課題と解決の方向性について真剣に議論しました。課題としては、活動への低参加率、活動資金不足、情報伝達の在り方などが提起されました。解決への方向性として、直接人から人へ声をかける、プラスOne発想で参加者へ得点を与える、行政と上手くつながる、地区連と退職者が連携する。など多くの提案が出されました。今後の活動に活かして行きたいと思います。

その後、松寿会から六甲山系の「フォレスター松寿の取り組みについて」と、松愛会三重支部より、宮川上流域の「緑の森づくり」について事例発表いただきました。三重支部は、2004年台風21号で被災した宮川流域の自然回復活動として植樹活動を続け、6年間で650本の植樹をされました。その過程で、地場育成苗を活用し、地域の活性化にも貢献されています。



三重支部事例発表

今年はユニトピアささやま開村40周年にあたり、エコリレージャパン高畑敬一顧問に「ユニトピアささやま開村時の思い」を当時のエピソードや、休暇村を開いた時の苦労話を交えて語っていただきました。高齢の参加者は当時を思い起こし感動された方が多く、又、若い方は初めて聞くお話で得るものが多かったと思います。

2. 第二日目

翌日、環境カウンセラーの本多講師に「ささやまの自然(里山再生)について」講義いただき、多様性と絶滅生物の関連を、分かりやすい事例でお教えいただきました。

例えば、蝶のキアゲハはセリ科植物が無いと幼虫が育たない。低木・中木・高木が混在した森は、日照時間や微生物によるセルロースの分解が最適なサイクルで循環し、生物が生存できる環境を維持できる。したがってこのつながりを人間が切ってきたことが生物の生存を脅かしている、等。

講義後、開村40周年を記念してエノキの植樹が行われました。エノキが育つことで、ささやまで見られなくなったオオムラサキの復活を期待する意味も込められています。



高畑顧問(右)記念植樹

植樹後、ささやまでの里山回復を目的として、現場体験行いました。山の斜面の低木伐採や、ススキを刈り取り堆肥作りなど、里山復活に期待しながら全員で汗を流しました。



低木伐採

間伐作業



堆肥づくり



最後に全員で研修成果を確認し、代表グループから今後の取り組みに対し其々の思いを発表して終了しました。

以上